

中国ビジネスを行う際に、中国と日本の法制度・商習慣の違いに戸惑うことがままあります。ビジネスに欠かせない「人・物・金」のうち、「金」に大きく関わる「銀行」の仕組みについてもそれが言えます。今回は、日本と中国の「銀行」の違いについて、書いてみたいと思います。

1. 銀行の種類

中国の銀行は、おおむね次のような種類に分かれています。

- (1) 中央銀行：中国人民銀行
- (2) 五大国有商業銀行（大型商業銀行）：中国銀行、中国工商銀行、中国農業銀行、中国建設銀行、交通銀行【上海市】。
- (3) その他の商業銀行：招商銀行【広東省深圳市】、中信銀行、浦東發展銀行【上海市】、興業銀行【福建省福州市】、民生銀行など。（【 】内は本社所在地、記載のないものは北京市）

上記以外に、都市商業銀行（大連銀行ほか）・農村商業銀行等多数。

- (4) 農村信用組合ほか



（中国銀行の店舗）



（招商銀行の店舗）

このうち (1) は、日本における日本銀行と同様の役割を果たします。

また (2) は、そもそも国が100%出資の「国家專業銀行」でしたが、2004年頃から株式会社への転換・株式上場が進められたのに伴い、次第に「国有商業銀行」と呼ばれるようになり、現在、中国銀監会では「大型商業銀行」と分類しています（但し依然として、国有資本が株式の過半数を占めている）。そして、これら「国有商業銀行」が金融市場において圧倒的なシェアを占めている、というのが、日本との大きな違いです。例えば、上記 (2) の五大銀行が全銀行の資産合計に占めるシェアは約47%となっています（2011年）。

これに対して、招商銀行・中信銀行等は「株式制商業銀行」と呼ばれる民営の銀行です。筆者は招商銀行の大連支店を利用していますが、サービスや対応は国有商業銀行に比べて良いようです（これについては後述）。

ここが違う！中国の「銀行」

●富山県大連事務所 副所長 飯田 修一

2. 口座開設と取引の特徴

(1) 口座開設

銀行取引を新しく始める際には、口座を開設しなければなりません。個人の場合は居民身分証明書（外国人であればパスポート）、法人であれば「企業法人営業免許証」を提出して口座開設を申し込みます。申込を受けた銀行はこれを点検した上、人民銀行の最寄の支店に送付します。人民銀行による審査認定を受けたうえで、「口座開設許可証」が発行され、口座開設の手続きが行われます。日本でも本人確認書類は必要ですが、中央銀行（＝日銀）の承認を得る、ということはありません。中国では一番最初の口座開設時から、人民銀行によるコントロールが始まっている、という訳です。

(2) 預金取引の特徴

預金の種類には、「基本預金口座」「一般預金口座」「専用預金口座」等の種類があり、開設可能者の資格や入出金の内容等が細かく決められています。

また中国にも手形・小切手等の制度がありますが、中国ではそれらが不渡り（資金不足等で代金決済ができないこと）となっても「取引停止処分」となることはなく、罰金を払えば基本的に済む、という制度になっています。ここは、「不渡り＝取引停止処分＝倒産」といった日本のシステムとは異なっており、その分、手形・小切手の信用力という点では相対的にやや懸念がある、ということについては注意が必要です。

(3) 貸出取引の特徴

貸出取引には、短期／中期／長期の区分、また信用扱い／担保付の区分があることは、日本とほぼ同じです。また借入の要件としては、工商行政管理機関の認定・登記済みで、生産経営は利益をあげており、借入金の流用がなく、また当局の年度検査を受検していること等があります。

貸出取引の手順は、①借入の申請、②審査承認、③契約締結、④貸出の実行、⑤借入の返済、という流れとなっており、日本におけるものとおおむね同じです。但し契約については「金銭消費貸借契約」を締結する形となり（＝「証書貸付」）、日本で一般的な「手形貸付」という制度は行われていないようです。



(招商銀行のATMコーナー)

3. 金利の決め方

日本では、預金・貸出に適用する金利は一般的に、市場実勢に基づいて各々の銀行が独自に決めます。これに対し中国では、中央銀行である人民銀行が「法定金利」を公表し、基本的にこれがどの銀行でも適用されます（※1）。ちなみに直近（2012/7改定）の「法定金利」は、預金金利が3.0%、貸出金利が6.0%（いずれも1年物）となっています。日本円の金利（例えば1年物定期預金は0.03%前後）と比べると、かなり高い水準となっていますね。

（※1）但し、近年は中国でもある程度金利の自由化の動きが出てきており、「法定金利」の上下一定の範囲内で、各銀行が適用金利を決められるようになってきました。

4. 店頭の様子の違いなど

(1) 窓口は土日も営業、ATM24時間は当たり前

まず中国の銀行の良いところです。日本の銀行は大抵、平日以外は店舗が閉まっていますが、中国では土日・祝日でも多くのところが窓口を開けています。「平日になかなか来られない人のため」ということですが、勤め人にとっては大変助かります。またATM（預金自動受払機）は24時間営業が当たり前で、とても使いやすく感じます。

(2) 窓口対応はぶっきらぼう

反面、中国の銀行には困ったところもあります。その最大のものは、ぶっきらぼうな窓口対応でしょう。銀行の窓口へ行っても、来店客と窓口担当者はプラスチックの板で完全に隔てられており（安全上の配慮か）、窓口の女子行員は愛想をふりまくこともなく、言われたことを機械的にやる、というケースが多いです。「いつもニコニコ、ティッシュをどうぞ」という日本流に慣れた者にとっては、かなり違和感を感じざるを得ません。（もっともこれは、中国のサービス業全般に言えることです。）この傾向は国有銀行において顕著のようで、相対的にまだ民営銀行の方が話はわかる、と感じます。

(3) 外国送金には、その理由の証拠書類が必要

中国では国策として、厳しい外貨管理政策が行われています。海外へ送金する時、また海外からの送金を受け取る時には、「それが何の金であるか」ということを、エビデンス（証拠書類）提示の上で説明しなければなりません（※2）。一度、日本からの給与送金を受け取る際に、「あなたが送金元の従業員で、この送金が正当な給与の受取であるという証拠を見せなさい」と言われ、驚いたことがあります。

（※2）なお日本でも、一定の金額を超えた場合は、銀行経由で当局へ報告書を提出する必要があります。

5. おわりに

以上みてきましたように、中国の銀行の特徴は「国家主導の業務推進と厳格な管理」と行うことができるといえます（共産主義の国なのですから、当然といえば当然なのですが）。特に、銀行行政を監督する銀監会、中央銀行である人民銀行、そして国务院の関連各部門による銀行業務及び金融政策のコントロールが、その根幹をなしています。

改革開放後の中国の急速な発展に、銀行および金融行政の果たした役割は非常に大きかった、ということは間違いないでしょう。そして、中国がGDPで世界第2位の大国となり、反面、経済成長率にやや陰りが見えてきた感のある今、これからの金融政策の舵取りと、銀行の果たす役割が、一層重要になると思われます。日米欧の金融市場・金融政策と同様、あるいはそれ以上に、中国の銀行の動きからは目が離せません。（了）